

第3回自然環境保全基礎調査

植生調査報告書

(愛媛県)

1988

環境庁

目 次

1. 調 査 概 要	1
2. 調査対象地域図	2
3. 愛媛県の植生の概説	3
4. 凡 例 解 説	6
5. 植 生 調 査 表	21
6. 資 料 リ ス ト	111
7. 調査担当者名簿	111

1. 調 査 概 要

(1) 調査地域の範囲

愛媛県が該当する地形図36面のうち瀬戸内海国立公園、足摺宇和海国立公園及び石鎚国立公園を中心に18面は、第2回自然環境保全基礎調査で調査済みである。

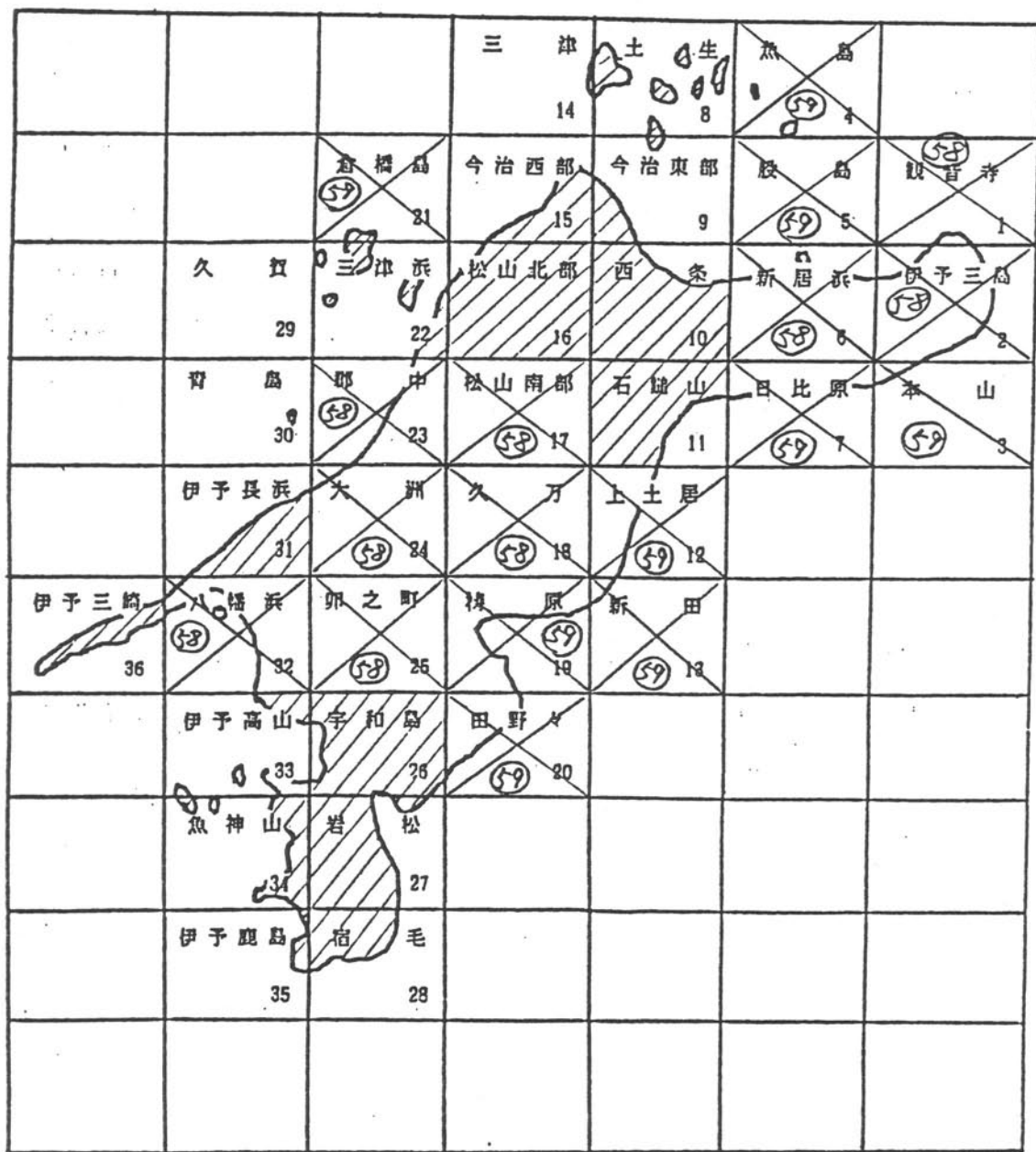
今回の第3回自然環境保全基礎調査(昭和58,59年度)は、残り18面の次の地形図について調査した。

地形図名……観音寺, 伊予三島, 本山, 魚島, 股島, 新居浜, 日比原, 上土居, 新田,
松山南部, 久万, 持原, 田野々, 倉橋島, 郡中, 大洲, 卯之町, 八幡浜

(2) 調査の実施方法

今治明德短期大学に再委託し, 調査者5名が現地に赴き現地踏査を行った。

2. 愛媛県調査対象地域図



伊予三島 — $\frac{1}{5}$ 万 地形図名
2 — 地図番号

3. 愛媛県の植生の概説

(1) 自然環境について

愛媛県は四国の北西～南西部に位置し、東端は宇摩郡新宮村（東経 $133^{\circ}42'$ ）、西端は西宇和郡三崎町（東経 $132^{\circ}01'$ ）、北端は越智郡上浦町（北緯 $34^{\circ}18'$ ）、南端は南宇和郡西海町（北緯 $32^{\circ}53'$ ）で、経度差 $1^{\circ}41'$ （約 155 Km）、緯度差 $1^{\circ}25'$ （約 155 Km）にわたる広範な地域を占め、その面積は 5,668 Km² であり、その瀬戸内海側の陸地部の海岸線は比較的単調であるが、内海には大小多数の島しょが散在する。これに反し、西部の佐田岬半島より南部にわたっては、10 Km より 40 Km 以上に突出した半島が 4 あり、リアス式海岸は複雑で、県下全域の海岸線は延べ約 1,200 Km に達する。このような長い海岸から陸地に及ぼす海水の影響は大きく、南西部及び南部、すなわち豊予海峡以南の宇和海に面する地域は日本海流（黒潮）の、また北部と東部は温暖な瀬戸内海の影響を受けている。

前述のように県の面積は 5,688 Km² であるが、そのうち、約 70 % は山地部で、石鎚山（1,982 m）を中心とする石鎚山系、大川嶺・笠取山（1,562 m）、大野ヶ原源氏ヶ駄場（1,403 m）以東の四国カルスト地帯、宇和島方面の高月山（1,229 m）・鬼ヶ城連山、県南端の篠山（1,065 m）があり、また県東部には東赤石山（1,707 m）を中心とする赤石山系、及び県のほぼ中央において北へ突出する高縄半島の中心をなす高縄山・東三方ヶ森（1,223 m）の山塊がある。残り約 30 % は平地部で、松山を中心とする道後平野を最大とし、次に東予市・西条市方面の道前平野、今治、新居浜、宇摩の各平野があり、さらに大洲、宇和等の著しい盆地がある。

次に地質について考えれば、大きく分けて瀬戸内海側より南へ向って 5 帯となる。すなわち、領家帯（花崗岩・砂岩・頁岩・安山岩等）、三波川帯（結晶片岩・礫岩・安山岩・蛇紋岩等）、みかぶ帯（はんれい岩・玄武岩・砂岩等）、秩父帯（砂岩・粘板岩・頁岩・チャート・石灰岩等）、四万十帯（砂岩・頁岩・礫岩・凝灰岩・花崗岩等）である。

気候は一般に温暖で県下全域の年平均気温は 15.1°C である。しかし、瀬戸内海の島しょ部では 17°C くらいあり、県南端部では 18°C くらいとなる。これら平地に比し、山岳地帯においては -18.8°C を記録したことがあり、積雪量も山村において 3 m に達したことがある。次に降水量は東・中部地域はいわゆる瀬戸内海気候で雨量少なく、平地部においては 1,100 ～ 1,400 mm、南部の平地は 1,700 ～ 2,000 mm であるが、山岳地帯では 2,000 mm 以上 2,800 mm を超えることがある。

(2) 植生について

前述のような諸種の環境条件により、植物は高山性のシコクイチゲ・キバナノコマノツメ・ミヤマダイコンソウ・ゴゼンタチバナ・オオバショリマ等から、暖帯～亜熱帯性のビ

ロウ・コササキビ・アコウ・モクダチバナ・ノアサガオ等があり、種類は非常に豊富で、羊歯植物・種子植物は亜・変・品種等を含めて約2,800種類（帰化・逸出植物は除く）があり、これらは既述の環境諸条件に適応して各種の植生をつくっている。

第3回自然環境保全基礎調査による、昭和58・59年度植生調査の結果の概略は次のようである。

1. 亜寒帯・亜高山帯自然植生

1. シコクシラベ群集

2. 亜寒帯・亜高山帯代償植生

2. ササ群落 3. ダケカンバ群落

3. ブナクラス域自然植生

4. スズタケ・ブナ群団 5. ウラジロモミ群落 6. ヒノキ群落 7. クロベ
ーヒメコマツ群落 8. 自然低木群落

4. ブナクラス域代償植生

9. ブナーミズナラ群落 10. クリーミズナラ群落 11. アシダ群落
12. ササ草原 13. ススキ群団 14. ススキ・ダイセンミツバツツジ群落

5. ヤブツバキクラス域自然植生

15. ツガ・ハイノキ群集 16. ケヤキ群落 17. サカキ・コジイ群集 18. ホソ
バタ群落 19. ウバメガシ群落 20. アカマツ群落

6. ヤブツバキクラス域代償植生

21. コナラ群落 22. シーカシ萌芽林 23. 路傍雑草群落 24. オンツツジ
アカマツ群集 25. コバノミツバツツジ・アカマツ群集 26. クロマツ群落

7. 河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生（各クラス域共通）

27. 中間湿原 28. ヨシクラス 29. ツルヨシ群集 30. ハマツナ・ハマサジ
群落

8. 植林地・耕作地植生（各クラス域共通）

31. アカマツ植林 32. クロマツ植林 33. スギ・ヒノキ植林 34. カラマツ植
林 35. 竹林：モウソウチク 36. 常緑果樹園：ミカン 37. 落葉果樹園：クリ・

ブドウ・ビワ・ウメ・キウイフルーツ等 38. 桑園 39. 茶畑 40. 畑地雑草群落
41. 牧草地 42. ゴルフ場 43. 水田雑草群落

9. そ の 他

44. 市街地 45. 緑の多い住宅地 46. 工場地帯 47. 造成地 48. 開放水域
49. 自然裸地

以上のように、1は1、2は2、3は5、4は6、5は6、6は6、7は4、8は13、
9は6、合計49種類の植生があった。

4. 凡 例 解 説

1. シコクシラベ群集

常緑針葉高木林

石鎚山及びそれに続く山地の最低部は海拔 1,500 m ぐらい、最高部は 1,980 m まで、大体において 1,700 m あたりから、それ以下のウラジロモミと交替し、1,800 m あたりから純林をつくる。

主要な構成種は、T₁ 層はシコクシラベ、T₂ 層はダケカンバ、ナナカマド、ナンゴクミネカエデ、S 層はイシヅチザサ、イシズチキイチゴ、クロヅル、H 層はイシヅチザサ、イシヅチキイチゴ、ミヤマモミジイチゴ、ハリブキ、コミヤマカタバミ、*Calamagrostis* spp., テバコワラビ、シラネワラビ、ミヤマワラビ、マンネンスギ、ヒメスギラン、M 層は蘚苔類、地衣類等である。

県内では、石鎚山脈の東端笹ヶ峰と西端石鎚山方面に分布する。

この大部分は、国有林であり、国定公園内であるから、保全は十分である。

2. ササ群落

この調査地のものは、S 層にわずかの低木があるが、これは 1965 年頃にイシヅチザサがいっせいに開花枯死した際に飛散してきたダケカンバの種子の実生によるもので、ダケカンバの少ない植分を調査し、ササ群落として記録した。

県内には、ササ群落の発達する地域が多く、石鎚山系の海拔 1,500 m 以上及び大野ヶ原・四国カルスト・大川嶺方面に広大な面積をおおっている。それらの Sasa は、イシヅチザサ、シコクザサ、ミヤコザサ類等である。

イシヅチザサ群落にあるものは、リンドウ、アキノキリンソウ、イヨフウロ、タカネオトギリ、トゲアザミ、シモツケソウ、ミヤマムグラ、ウスユキムグラ、バイケイソウ、ホソバシュロソウ、ショウジョウスゲ、ススキ、*Calamagrostis* spp. 等である。

これらのササの大群落は、国定公園景観上の一要素である。

3. ダケカンバ群落

夏緑高木林

石鎚山脈の海拔 1,700 m ぐらい以上の斜面に発達する。調査表に記載のものは、この群落の典型的な一例である。

主要な構成種は、T₁ 層はダケカンバ、コハウチワカエデ、ミズナラ、ヒメシャラ、T₂ 層以下にはイシヅチザサを主とし、ナナカマド、ナンゴクミネカエデ、ミヤマモミジイチゴ、イシヅチキイチゴ、イヨフウロ、アキノキリンソウ、タカネオトギリ、*Calamagrostis*,

Carex 等がある。

県内には、石鎚山脈のみにある。

この群落は、国有林、国定公園内にあり、保全は十分である。

4. スズタケブナ群団

夏緑高木林

海拔 1,100 m ぐらいから 1,700 m ぐらいの稜線及び斜面に発達する。

主要な構成種は、T₁層はブナ、ミズナラ、コハウチワカエデ、ウラジロモミ、T₂層はシロモジ、タンナサワフタギ、ヨグソミネバリ、ヒメシャラ、ウラジロモミ、S層はイシヅチザサ、シコクザサ、ミヤコザサ、スズタケ、ケクロモジ、シロモジ、コガクウツギ、H層はSasa、ヤマアジサイ、ツルシキミ、キヌタソウ、テンニンソウ、シコクブシ、ツタウルシ、イワガラミ、ハウチャクソウ、チゴユリ、Carex spp., Calamagrostis spp. 等である。

県内のブナ林は、石鎚山脈を始め、大野ヶ原・大川嶺・四国カルスト、皿ヶ嶺、高縄山等にすぐれた大ブナ林がある。

ブナ林は、そのほとんどが国有林、国定公園内にあり、また特に県中部の小屋山は県自然環境保全地域に指定され、それぞれ美林が保護されている。

5. ウラジロモミ群落

常緑針葉高木林

海拔 1,300 m ぐらいから 1,700 m ぐらいまでの斜面、土壌はやや湿気を帯びていることが多い。

主要な構成種は、T₁層はウラジロモミ、T₂層はウラジロモミ、コハウチワカエデ、タンナサワフタギ、シロモジ、コバノトネリコ、S層はダイセンミツバツツジ、コヨウラクツツジ、ヨグソミネバリ、ヤマウルシ、H層はイシヅチザサ、アキノキリンソウ、トゲアザミ、オタカラコウ、イタドリ、テキリスゲ等である。

県内では、石鎚山脈を始めとし、赤石山脈、大野ヶ原・四国カルスト地帯等に広く分布し、特有の相観はすぐれた景観を呈する。

それら群落の多くは、国有林、国定公園内にあり、保全は十分である。

6. ヒノキ群落

常緑針葉高木林

急峻な稜線、断崖等の土地的極相林である。

主要な構成種は、T₁層はヒノキ、ツガ、コウヤマキ、ウラジロモミ、ヒメコマツ、T₂層はアケボノツツジ、ダイセンミツバツツジ、ジャクナゲ、ヤマグルマ、S層はヒカゲツ

ツジ、ベニドウダン、アキシバ、クロソヨゴ、アセビ、シャクナゲ、H層はイシヅチザサ、アサマリンドウ、シコクママコナ、ヤマソテツ、シシガシラ、シノブカグマ、M層はコウヤコケシノブ、ホソバコケシノブ、地衣類等である。

県内には、石鎚山脈、赤石山脈に小規模な群落があるにすぎない。

これらのヒノキ群落は、国有林、自然公園内であるため、保全は十分である。

7. クロベーヒメコマツ群落

常緑針葉高木ないし亜高木林

赤石山脈の海拔 1,000 m あたりから上部の斜面及び稜線に分布する。

主要な構成種は、T₁層はクロベ、ヒメコマツ、ツガ、ヒノキなどの針葉樹が中心で、T₂層はクロベ、ヒメコマツ、ツクシシャクナゲ、アケボノツツジ、シロドウダン、イシヅチザクラ、フウリンウメモドキ等である。

S層は、ツクシシャクナゲ、スズ、ツルシキミ、クロヅル、スノキ、ツリバナ、ヒロハツリバナなどで、H層は、ショウジョウスゲ、ホソバツルツゲ、ゴゼンタチバナ、ヒメノガリヤス、アキシバ、シノブカグマ、シシガシラ等である。

愛媛県内では、東赤石山だけに見られる。

8. 自然低木群落

夏緑低木林

赤石山脈の海拔 1,100 m あたりから 1,400 m あたりの稜線及び斜面上部に分布する。

主要な構成種は、S層は、コメツツジ、ダイセンミツバツツジ、ヤマツツジなどのツツジ類やヤマヤナギが中心で、H層は、ツガザクラが大部分で、その中にS層の稚樹が混じっている。

M層には、蘚類や地衣類が見られる。

愛媛県内では、ツガザクラのある自然低木群落は赤石山脈だけに見れる。

9. ブナーミズナラ群落

夏緑高木ないし亜高木林

海拔 900 m あたりから 1,500 m あたりの稜線及び斜面に分布する。

主要な構成種は、T₁、T₂層は、ブナ、ミズナラが中心で、そのほかにクマシデ、アカシデ、イヌシデ、イロハモミジ、ウリハダカエデ、リョウブ、ネジキ等である。

S層は、ヤマボウシ、タンナサワフタギ、コックバネウツギ、ヤマツツジ、スノキなどで、H層は、*Sasa* spp. が林床を覆い、その他にイワガラミ、マルバフユイチゴ、ナツヅタなどが見られる。

愛媛県内では、上浮穴郡小田町小田梁山、宇摩郡土居町や別子山村の山間部、皿ヶ嶺連

峰などに分布する。

10. クリーミズナラ群落

夏緑高木ないし亜高木林

海拔 800 m あたりから 1,400 m あたりの斜面及び稜線に分布する。

主要な構成種は、 T_1 、 T_2 層は、ミズナラ、ネジキ、リョウブ、コハウチワカエデなどで、 S 層は、タンナサワフタギ、コハウチワカエデ、リョウブ、ノリウツギ、ヤマウルシなどで、皿ヶ嶺では、トミクサザサなどの *Sasa* 属が見られる。

H 層は、マルバフユイチゴ、ミヤマタニソバ、ツタウルシ、ナガバモミジイチゴ、オククルマムグラ、シシガシラ等で、大川嶺では、チマキザサなどの *Sasa* 属が見られる。

愛媛県内では、四国カルスト、小田深山、皿ヶ嶺連峰、赤石山脈などに分布する。

11. アカシデーイヌシデ群落

夏緑高木ないし亜高木林

中間温帯林で適湿の傾斜地。

主要な構成種は、 T_1 層はアカシデのほかイタヤカエデ、ツガ、フサザクラ、ミズキ、 T_2 層はツガ、アセビ、アカシデ、ノリウツギ、ヒサカキ等多種、 S 層はシロダモ、コックバネウツギ、ネジキ、イヌツゲ、コゴメウツギ、クロモジ、 H 層はテバコモミジガサ、ヤマシロギク、キンミズヒキ、フユイチゴ、イノデモドキ、クマワラビ、シシガシラ等多種、 M 層は蘚苔類等である。

県内では、ブナクラス域のスズタケブナ群団の下方からヤブツバキクラス域の低地林まで各地にある。

伐採される可能性が大きい。

12. ササ草原

海拔 1,000 m あたりから 1,300 m あたりの斜面や稜線に分布する。

亜高山帯のササ群落は、イブキザサやチマキザサなどの群落であるが、このササ草原は、主として、ミヤマクマザサやミヤコザサの群落で、ウンゼンザサやトミクサザサの群落となっているところもある。

別紙調査表は、ウンゼンザサ群落、トミクサザサ群落の調査結果である。構成種は、ササが全面を覆うため、一般的には少ない。

また、場所によって種類に違いがあり、共通性に欠けることが多いが、調査地では、アキノキリンソウ、ヤマラッキョウ、ツリガネニンジン、マイヅルソウ、イヨフウロ、イブキトラノオ、オトギリソウ、トダシバ、ススキ、リンドウ、シシガシラなどが見られる。

愛媛県内では、大川嶺方面や、四国カルストを中心に分布し、皿ヶ嶺連峰、石鎚山脈の

下部などにも分布している。

13. ススキ群団

海拔 900 m あたりから 1,000 m あたりの斜面や尾根に分布する。

主要な構成種は、ススキのほかマルバハギ、オヤマボクチ、ヒメヤブラン、トダシバ、オトギリソウ、オミナエシ、ミツバツチグリ、ヒメハギ、リンドウ、アキノキリンソウ等である。

愛媛県内では、塩塚峰に分布しているが、小さな面積では、各地に点在している。

14. ススキーダイセンミツバツツジ群落

夏緑低木林

海拔 1,300 m あたりから 1,500 m あたりの斜面上部や尾根に分布する。

主要な構成種は、S 層は、ダイセンミツバツツジのほかコヨウラクツツジ、ヤマヤナギなどで、H 層は、ススキが中心で、そのほか、ショウジョウスゲ、アキノキリンソウ、ヤマラッキョウ、シモツケソウ、マイヅルソウ、ツリガネニンジン、ホソバシュロソウ、キシミレ、リンドウ等であるが、注目すべきは、キシミレが広い範囲に生育していることである。

愛媛県内では、大川嶺方面で見られる。

15. ツガーハイノキ群集

(コカンスゲーツガ群集)

常緑針葉高木林

海拔 8,000 m あたりから 1,300 m あたりの斜面や稜線で見られる。

主要な構成種は T₁ 層は、ツガのほかモミや稀にブナが混じり、T₂ 層は、シキミ、ケクロモジ、S 層は、ケクロモジ、スズタケ、H 層は、コカンスゲ、カンスゲ、ツルシキミ、ガクウツギ、シロモジ、ヤブムラサキ、ツタウルシ、M 層は、蘚苔類等である。

この植生は、モミーシキミ群落と複雑に入り混じり、斜面下部では、モミーシキミ群落となる傾向がある。

愛媛県内各地に、小規模なものが見られるが、上浮穴郡面河溪などには、まとまった群落がある。

16. ケヤキ群落

夏緑高木林

溪谷沿いの急斜面や断崖となっていて、土地の利用が困難な場所などに分布する。ヤブツバキクラス域に多いが、ブナクラス域の下部にまで続くこともある。

主要な構成種は、T₁層はケヤキ、クマノミズキ、サワグルミ、アサガラ、カツラ、トチノキ、イタヤカエデ、コハウチワカエデ、ウリハダカエデなどで、T₂層は、チドリノキ、マユミ、ツリバナ、コミネカエデ、などである。

S層は、チドリノキ、モミジウリノキ、ハナイカダ、シラキ、サワダツ、アブラチャン、ミヤマホウソなど、H層は、イワガラミ、ミヤマイボタ、ヤマジャクヤク、コンロンソウ、ヤマアイ、シロバナエンレイソウ、ミツバテンナンショウ、ミヤマタニソバ、イトスゲ、ショウジョウスゲ、ジュウモンジシダ、ツヤナシイノデ、イノデモドキ、等で、S層、H層共に種類が多い。

愛媛県内では、上浮穴郡小田町小田深山、皿ヶ嶺連峰などに分布する。

17. サカキーコジイ群集

常緑広葉高木林

低地、低山の社叢などで、稀に見られる。

主要な構成種は、T₁層は、コジイ、ホルトノキ、アラカシなどで、T₂層は、コジイ、アラカシ、イチイガシ、モッコク、カクレミノ、タイミンタチバナ、サカキ、カンザブrouノキなどである。

S層は、イズセンリョウ、ヤブツバキ、アオキ、サカキ、ミミズバイ、タラヨウ、ジュズネノキなどで、H層は、テイカカズラ、イズセンリョウ、マンリョウ、ジャノヒゲ、コヤブラン、ハナミョウガ、ベニシダ、ホソバカナワラビ等である。

愛媛県内では、大洲八幡神社、伊予市伊予岡八幡神社などにこの群落が見られる。

18. ホソバタブ群落

常緑広葉樹高木林

海拔700 mあたりより下部の溪谷沿いの急斜面や断崖となっていて、土地の利用が困難な場所などに分布する。

主要な構成種は、T₁層は、ホソバタブ、バリバリノキ、ウラジロガシなどの常緑樹が中心であるが、ケヤキ、フサザクラ、ミズキ、イロハカエデなどの落葉樹も混じる。

T₂層は、ヤブツバキ、ホソバタブ、バリバリノキ、ヤブニッケイ、ウラジロガシ、エゴノキ、シラキ等である。

S層は、T₁、T₂層の稚樹のほか、アブラチャン、イヌガヤ、キブシなどで、H層は、ガクウツギ、ミヤマフユイチゴ、ミズヒキ、キツタ、イヌツゲ、ヒロハヤブソテツ、クマワラビ、キジノオシダ、リョウメンシダ、ノコギリシダなど種類が多い。

19. ウバメガシ群落

常緑広葉亜高木ないし高木林

海岸の急斜面のかけ地に多いが、時に稜線上又は緩斜面のやや乾いた所。

主要な構成種は、 T_1 層はウバメガシ、タイミンタチバナ、マツ、 T_2 層はウバメガシ、モッコク、タイミンタチバナ、トベラ、モチノキ、S層はウバメガシ、トベラ、タイミンタチバナ、マサキ、オンツツジ、H層はヤブコウジ、コウヤボウキ、ツワブキ、ヤブラン、ススキ、ヒトツバ、オオイタチシダ、等である。

なお、これに入れるべきものに、オニヤブソテツーハマビワ群落がある。

県南部の海岸、島しょ部に普通で、中部、東部の島しょ部にもあるが、時に内陸奥深く入っていることがある。

ウバメガシ群落の多い地域のマツが松枯病によって全滅している現在、ウバメガシ群落は景観上貴重な存在である。なお、これを薪炭用としない今日、伐採の可能性は少ないが、庭木用として盗採されることがある。

20. アカマツ群落

常緑針葉高木ないし亜高木林

低地から海拔1,000 mあたりまでの土地の利用が困難な岩峰や断崖に分布する。

主要な構成種は、 T_1 、 T_2 層は、アカマツ、ツガ、ヒノキ、ネズ、ソヨゴ、ネジキ、コナラなどで、S層は、コックバネウツギ、キハギ、アセビ、リョウブ、ヒカゲツツジなどである。

H層は、ナガバノコウヤボウキ、アクシバ、ヤブコウジ、シノブ、クリハラン、イワヒバなどのほかに、マメヅタラン、セッコク、ミヤマウズラ、ジガバチソウなどのラン科の植物がある。

愛媛県内では、上浮穴郡岩屋山、古岩屋山にはこの群落が発達しているが、小面積のものは、各地で見られる。

21. コナラ群落

(クヌギーコナラ群集)

夏緑高木ないし亜高木林

低地より海拔1,000 mぐらいまでの斜面、平地の樹林。

主要な構成種は、 T_1 層はクヌギ、コナラ、アカシデ、ミズキ、 T_2 層はクヌギ、コナラ、アカシデ、リョウブ、アセビ、S層はヒサカキ、アセビ、ヤブムラサキ、コバノガマズミ、コバノミツバツツジ、H層はヤブコウジ、コウヤボウキ、フユイチゴ、テイカカズラ、シラヤマギク、ツワブキ、ヒカゲスゲ、ナキリスゲ、ノガリヤス、シシガシラ、ワラビ、コシダ、M層は蘚類等である。

県内各地にあり、南部中部に多く、東部には少ない。かつて薪炭用林であったが、現在放棄されている。

薪炭材としての必要性はないが、しかしシイタケ原木用として伐採が盛んに行なわれ、原木の不足を来したので、伐採後萌芽又は苗木栽植によって、その成長が期待されている。

22. シイカシ萌芽林

常緑広葉亜高木ないし高木林

低地、低山の斜面、適湿ないしやや乾いた所。

主要な構成種は、 T_1 層はコジイ、アラカシ、 T_2 層はコジイ、アラカシ、ヤブツバキ、ヤブニッケイ、タイミンタチバナ、サカキ、 S 層はアラカシ、ヤブツバキ、ヒサカキ、コジイ、ネズミモチ、イヌビワ、ヤマウルシ、 H 層はフユイチゴ、ササクサ、ナキリスゲ、コヤブラン、ヤブコウジ、ヒトツバ、ベニシダ、ウラジロ、 M 層は蘚苔類、等である。

県内各地にあるが、殊に南部中部に多く、海岸、川岸のがけ地又は社寺林に残されていることが多い。

現在は薪炭用としないから、おそらく将来も伐採される可能性は少ないであろう。

23. 路傍雑草群落

各地で普通に見られるが、面積としては狭く、植生図として表せないものが大部分である。

構成種は、場所によってかなり違っている。別紙調査表は、その一例として調査した地点のヨモギ群落で、 H_1 は、ヨモギ、オオアレチノギク、ホウキギク、カワラヨモギなどで、 H_2 層は、マルバヤハズソウ、マメグンバイナズナ、カナムグラ、アメリカネナシカズラなどである。

なお、調査表の(1)と(2)の総種類数は20であるが、そのうち、帰化植物が12種類あり、その帰化率は60%である。

愛媛県内では、重信川の河原、松山市北吉田町や伊予郡松前町などの海岸埋立地にはこの群落が広がっているが、小面積のものは、各地で見られる。

24. オンツツジーアカマツ群集

常緑針葉高木林

低地より海拔1,000 mぐらいまで。山すそから山頂、稜線、斜面まで。

主要な構成種は、 T_1 層はアカマツ、クロマツ、 T_2 層はオンツツジ、ヒサカキ、ヤマウルシ、コナラ、ナツハゼ、 S 層はオンツツジ、ヒサカキ、カマツカ、コバノガマズミ、コックバネウツギ、 H 層はコウヤボウキ、テイカカズラ、ヤブコウジ、ススキ、シュンラン、ヘクソカズラ、アキノキリンソウ、ワラビ、ウラジロ、コシダ、ベニシダ、 M 層は蘚苔類等である。

県内各地、殊に東部と南部に多く、中部に少ない。

クロマツ林に続く松枯病のため、アカマツ林の絶滅した部分は非常に多く、国定公園内の景観に大変化をもたらしたが、松林に代って常緑広葉樹が繁殖しつつあり、今後の遷移が注目される。

25. コバノミツバツツジーアカマツ群集

常緑針葉高木林

低地より海拔 1,000 m ぐらいまで。山すそから山頂、稜線、斜面まで。

主要な構成種は、 T_1 層はアカマツ、クロマツ、時にネズミサシ、 T_2 層はアカマツ、ネズミサシ、ヒサカキ、カマツカ、ヤマウルシ、 S 層はコバノミツバツツジ、ヒサカキ、カマツカ、ナツハゼ、コナラ、 H 層はアキノキリンソウ、ニガナ、ヒョドリバナ、ヤブコウジ、ススキ、ネザサ、ワラビ、コシダ、オオイタチシダ、 M 層は蘚苔類、地衣類、等である。

県内各地、殊に中部に多く、東部と南部に少ない。

クロマツ林に続く松枯病のため、アカマツ林の絶滅した部分は非常に多く、国定公園内の景観に大変化をもたらしたが、松林に代って常緑広葉樹が繁殖しつつあり、今後の遷移が注目される。

26. クロマツ群落

常緑針葉高木林

海岸地帯から平地、低山下部の斜面。砂浜から肥沃土壌まで。

主要な構成種は、 T_1 層はクロマツ、アカマツ、 T_2 層はクロマツ、ハゼノキ、クロガネモチ、ヒサカキ、ネズミサシ、 S 層はヒサカキ、ネズミモチ、トベラ、ヤマウルシ、ハゼノキ、シャシャンボ、アカメガシワ、 H 層はヒサカキ、ヤブコウジ、コウヤボウキ、ススキ、イタドリ、ヤマシロギク、アキノキリンソウ、ツワブキ、コヤブラン、ワラビ、コシダ等である。

県内各地の海岸砂浜及び断崖地から低山、又河川兩岸の並木として存在するものが多い。

松枯病の被害は大きく、本県への侵入は三崎半島西端からであるが、現在半島の西半はほとんど松林を残さない惨状で、景観に大変化をもたらした。天然記念物、名勝の松も順次枯死しつつあるが、しかし、保護対策が十分であったため、今なお健在を誇っているものもある。

27. 中間湿原

山地の池の周辺や水流沿いなどには、非常に小さな面積で数ヶ所で見られるが、植生図として表せないものが殆どである。

別紙調査表は、皿ヶ嶺キャンプ場付近の湿原での調査結果で、主要な構成種は、コバギ

ボウシ、ヌマトラノオ、アカバナ、ハンカイソウ、カサスゲ、ゴウソ、イ、ミズチドリ、*Eleocharis* sp、ヒメシダ、オオミズゴケ等である。

愛媛県内では、上浮穴郡久万町皿ヶ嶺などにこの群落がある。

28. ヨシクラス

河口、河辺、ため池などには、この群落が各地に点在しているが、面積が狭く、植生図に表せないものが多い。

ヨシが広く全体を覆うため、きわめて単純な群落となり、カナムグラ、クズ、ヘクソカズラ、カラスウリなどのつる性植物が巻き付いているところもある。

愛媛県内では、肱川、小田川下流、重信川などでこの群落が見られる。

29. ツルヨシ群集

河辺などには、この群落が各地に点在しているが、面積が狭く、植生図に表せないものが多い。

主要な構成種は、 H_1 層は、ツルヨシのほかタコノアシ、ガマ、ヒメガマ、ケイヌビエなどで、 H_2 層は、ミゾソバ、クサヨシ、ヤナギタデ、シロバナサクラタデ、キシウスズメノヒエ、セリ、ノチドメ等である。

愛媛県内では、肱川、重信川などでこの群落が見られるが、オギ群落と交互になって斑状に分布することもあり、両者を区別して表すことができにくいいため、ツルヨシ群集としてまとめている。

30. ハママツナーハマサジ群集

塩田跡の塩沼性群落

廃塩田がそのまま放置されてすでに長く、その地面に自然発生した本群落である。

群落構成種は、 H 層のみで、ハマツナ、ハマサジ、ハマホウキギ（イソホウキギ）を主とし、ホソバノハマアカザ、ホウキギク等である。

県内東部の新居浜市、伯方町などにわずかに残っている廃塩田又は海岸、河口の塩沼地にこの群落がある。

廃塩田も年を経るとともに、漸次周辺部の雑草、例えばツルヨシ、アキノウナギツカミ、キツネガヤ、ホウキギクのような種類が侵入し、増加する傾向がある。

31. アカマツ植林

常緑針葉樹植林

県内には、アカマツ植林と考えられるものが各地に点在しているが、手入れが行われていないものが大部分で、オンツツジーアカマツ群集やコバノミツバツツジーアカマツ群集

との区別が困難なものが多い。

また、面積が狭く、植生図に表すことが難しいものもあり、今回の調査では、皿ヶ嶺以外のものは、代償植生として扱っている。

別紙調査表は、国有林のため植林がはっきりしているものであるが、手入れがなされていないため、構成種が多い。

T₁層は、アカマツが大部分であるが、T₂層は、植被率が80%もあり、ネジキ、リュウブ、アオハダ、ヤマウルシ、クマシデ、イロハカエデ、ツタウルシ、ハリギリ、コハウチワカエデ等である。

S層は、ヤマツツジ、コバノガマズミ、ヤマシグレ、アカシデ、クロモジ等で種類も多い。

H層は、トミクサザサが密生し、そのほかにオヤマムグラ、ミヤマタニソバ、ナガバモミジイチゴ等である。

32. クロマツ植林

常緑針葉樹植林

クロマツ植林も、アカマツ植林と同じように、手入れが行われていないものが大部分で、代償植生のクロマツ群落との区別が困難なものが殆どである。新居浜市多喜浜などには、クロマツの株間から考えて植林と思われるものがあるが、それ以外のものは、今回は、クロマツ群落として扱っている。

別紙調査表は、手入れの行われていない植林の例で、T₁層は、クロマツだけであるが、T₂層には、コナラ、ハゼノキ、ヒサカキ、ヤマツツジ、オンツツジなどがあり、S層は、アセビ、ヒサカキ、オンツツジのほかに各種の植物が生育していて、植林としては、種類数が多い。

H層は、コシダ、ウラジロ、コウヤボウキ等である。

33. スギ・ヒノキ植林

(1) スギ・ヒノキ植林（スギ）

常緑針葉樹植林

一般に山のNW～N～NE方向に多く、適湿ないしやや湿気のある肥沃の地。

主要な構成種は、T₂層はヤブツバキ、シロダモ、ケヤキ、ヤマウルシ、S層はネズミモチ、シロダモ、イヌガヤ、イヌビワ、コバンノキ、コガクウツギ、ナガバモミジイチゴ、イワガラミ、コアカソ、ウドH層はフユイチゴ、マルバフユイチゴ、キヅタ、モミジガサ、イノコヅチ、ミズヒキ、アキノタムラソウ、ハウチャクソウ、タガネソウ、ナルコユリ、ジャノヒゲ、リュウメンシダ、シシガラシ、ジュウモンジシダ、ヤブソテツ、ミゾシダ、クマワラビ、ベニシダ等であって、県下全体のスギ植林には、下層植生の種類が極めて多

く、枚挙にいとまがない。

(2) スギ・ヒノキ植林（ヒノキ）

常緑針葉樹植林

一般に山のN方向のほか、E～S～W方向にも植林されている。

主要な構成種はスギ植林と大差はなく、極めて多くの種類があり、枚挙にいとまがない。

34. カラマツ植林

落葉針葉樹植林

カラマツ植林は、小さな面積では各地で見られるが、植生図に表せないことが普通である。しかし、新居浜市銅山峰方面や宇摩郡別子山村ではかなりの面積でこの植林が見られる。

新居浜市や別子山村のカラマツ植林は最近の手入れは行われておらず、T₂層、S層、H層ともに種類が多い。

T₁層は、カラマツが大部分であるが、ツガ、スギなどが混じっているところがあり、T₂層は、植被率が70%～80%もあり、ネジキ、ノリウツギ、ツガ、アセビ、トサノミツバツツジ、ヤマツツジ、リョウブ、アサノハカエデ、オオカメノキ、イヌシデ、オトコヨウゾメ、コバノトネリコなどが見られる。

S層は、ヨコウラクツツジ、ミヤマガマズミ、キバナツクバネウツギ、タンナサワフタギ、ヤマシグレ、ヒカゲツツジなどで、H層は、ツルデマリ、アカモノ、アキノキリンソウ、ヒメスゲ、ヒカゲノカズラ、ヘビノネゴザ、シシガシラ、ミヤマクマワラビ、マンネンスギなどである。

35. 竹 林

（モウソウチク林）

山村の山すそ、低山の斜面。

モウソウチク林の構成種は、T₁層はモウソウチク、H層はイノコヅチ、ヤブマメ、クサマオ、ヒヨドリジョウゴ、ヤブタビラコ、ヤマハコベ、ツルリンドウ、ヌスビトハギ、コナスビ、カテンソウ、イタドリ、クサイチゴ、ヒガンバナ、コチジミザサ、ジャノヒゲ、コヤブラン、キヅタ、シロダモ幼木等である。

36. 常緑果樹園

常緑低木のミカン畑

丘陵、低山の斜面及び平地の畑である。

ミカンは低木で、大体2mぐらい、枝葉は非常に低く、地上20cmまで下がることもある。

ミカン畑の地面は除草が十分行われている場合と、雑草の繁殖がそのままになされている場合とがある。

雑草の主なものは、ヤエムグラ、ヨモギ、スズメノエンドウ、カラスノエンドウ、コハコベ、ウシハコベ、ホトケノザ、シロツメクサ、ムラサキカタバミ、スズメノカタビラ等である。

ミカン園は県内各地域にあり、普通は海岸近辺から海拔 200 m ぐらいまでであるが、ときに 350 m まで、また、最高は 600 m に小規模ながら栽培されている。

本県のミカンは主としてウンシュウミカンで、次いでナツカン、イヨカンである。本県のミカン類の産出額は全国第 1 位であるが、近年減反の方針により、栽培面積が減らされつつある。

37. 落葉果樹園

落葉低木のブドウ畑

この調査地のように低山の山すそ利用の畑と、平地の畑の場合とがある。

この一例のブドウ畑は除草が十分ではない。ブドウ畑によっては除草が完全に行なわれている場合もある。

県内にはブドウ畑は極めて少ない。

38. 桑 畑

39. 茶 畑

40. 畑地雑草群落

この調査は時期的には遅きにすぎたきらいがある。しかし、夏季は畑作の最盛期であるから除草がなされており、かえって調査の目的が果されないとも考えられる。

今回の調査は、畑作後畑面の放置された状態の雑草植生である。

主要な構成種は、コハコベ、オオイヌノフグリ、ホトケノザ、スズメノエンドウ、カラスノエンドウ、ヤエムグラ、ヨモギ、タネツケバナ、スズメノカタビラ等である。

なお、畑地雑草は各地、各季によって差異があるはずであるが、本県では一般に、①四季による差異、②内陸部が半島・島しょ部か、③山村か平地部か、④広大な畑作地帯か集落附近か、⑤前作収穫後の放置された畑か休耕畑か、等によって雑草植生はかなり異なるものと考えられる。

41. 牧草地（人工草地）

牧草地の植生

ここにあげた一例は海拔 700 m のものである。

主な構成種は、ヒロハウシノケグサ、オオアレチノギク、ヨモギ、ススキ、シロツメクサ、ヒメスイバ、ヤマアザミ、等であるが、その他に多数の種類がある。

なお、この牧場の上方にはアカシデ・イヌシデ群落があり、また、このうち一部にはスギ、ヒノキの植林が介在している。

42. ゴルフ場

ゴルフ場の植生

このゴルフ場は海拔 100 m から 150 m にある。

調査の群落は単純であって、植栽のシバを除く雑草は種類少なく、DS も極めて小さい。

43. 水田雑草群落

この調査は時期的には遅きにすぎたきらいがある。しかし、夏季は稲作の最盛期であるから除草がなされており、かえって調査の目的が果されないとも考えられる。

今回の調査は一例にすぎないが、稲作収穫後放置された状態の雑草植生である。

主要な構成種は、ノミノフスマ、レンゲ、スズメノトウガラシ、ツメクサ、トウバナ、オランダミミナグサ、スズメノカタビラ、マツバイ、等である。

なお、水田雑草は各地、各季によって差異があるはずであるが、本県では一般に、①四季による差異、②内陸部か半島・島しょ部か、③山村か平地部か、④広大な水田地帯か集落附近か、⑤稲作収穫後の放置された水田か休耕地か、等によって雑草植生はかなり異なるものと考えられる。

44. 市街地

45. 公園・墓地

46. 工場地帯

47. 造成地

48. 開放水域

49. 自然裸地

6. 資 料 リ ス ト

当調査は、すべて現地調査を行ったので、特に挙げるような文献・資料等はない。

7. 調 査 担 当 者 名 簿

番号	氏 名	所 属	分 担 分 野
1	山 本 四 郎	今治明德短期大学	総 括 責 任 者 (愛媛県全体)
2	石 川 早 雄	新居浜市立宮西小学校	愛 媛 県 東 部 愛 媛 県 中 部
3	藤 田 幹 雄	愛媛県立西条高等学校	” ”
4	中 本 司	松山市立西中学校	愛 媛 県 中 部 愛 媛 県 南 部
5	松 井 宏 光	松山東雲短期大学	” ”

